

会長就任のご挨拶

一般社団法人 日本チタン協会
会 長 柴 田 耕一朗*



An Inaugural Address from Dr. Eng Koichiro SHIBATA,
New Chairman of The Japan Titanium Society

この度一般社団法人日本チタン協会（以下、チタン協会）の会長に就任しました事は誠に光栄です。当協会の70年近い歴史と数々の素晴らしい成果は、諸先輩の長年に亘るご努力の賜物であり、これまでの活動に深い尊敬の念を表したいと思います。会長という大役の職責の重さに身の引き締まる思いですが、会員の皆様にご協力を頂きながら我が国チタン産業の一層の発展に貢献して参りたいと思います。

さて、令和元年の日本のチタン業界の状況ですが、昨年のスポンジチタンの出荷量は欧米の航空機産業の旺盛な需要を背景に過去最高レベルの約61千トンとなりました。

一方、チタン展伸材出荷量は米中貿易摩擦の影響で世界的な投資の抑制が進み、主要用途である電力やプレート熱交の需要が減退し約16千トンと5年連続の増加傾向から一転して減少に向かいました。

また、足下は、予想だにしなかった新型コロナウイルスの世界的な感染拡大にともなって経済活動が急速に停滞し、航空機産業および一般産業への影響が深刻化しつつあります。

欧州とは昨年日EU経済連携協定（EPA）が発効され5年をかけ関税が撤廃されることになるものの、チタン業界を取り巻く環境は全く予断を許さない状況にあると認識しております。

我々は過去に経験したことのない厳しい環境下にはありますが、当協会といたしましては、引き続き1) 労働災害や産業事故防止の徹底、2) 日本独自の新規用途開拓や需要拡大に向けた取り組み、3) 研究開発・技術者育成のための産学官連携、4) チタンの国際標準化の着実な推進などの基本的な活動を鋭意進めて参ります。更には、チタン業界の国際競争力強化のために、電力問題・関税格差是正などに係わる業界の声を政府や関係省庁に継続してお伝えしていきたいと考えています。

チタンは、軽量で耐食性にも優れる素晴らしい金属であり、航空機やプラントから民生品等幅広い分野に使用されており、最近では燃料電池車にも搭載されるなど、用途が拡大しており、今後の成長が楽しみな材料であると確信しております。

私自身微力ではありますが、経済産業省をはじめとする関係省庁、大学研究機関の皆様のご支援、ご協力を頂き、今後のチタン産業の発展に尽力して参る所存ですので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

* (一社)日本チタン協会会長/㈱神戸製鋼所 代表取締役副社長執行役員
Chairman of The Japan Titanium Society
Executive Vice President and Representative Director of Kobe Steel, Ltd.